

平成13年度事業計画

自 平成13年4月 1日

至 平成14年3月31日

財団法人 ハイライフ研究所

1. 各研究の概要

①21世紀のハイライフに関する研究

[研究テーマ 1]

「食のライフスタイル研究」(継続研究)

2年目として 食のライフスタイル変化の仮説検証のための消費者研究

研究概要

すでに21世紀を迎え、日本人の食を取り巻く環境は、緩やかながらも日々確実に変化している。このような環境変化の中にあつて、食の送り手・作り手である食品産業(生産者・メーカー・流通業者・外食・中食産業 等)の現場、そして、受け手である消費者(生活者)の食に対する意識やライフスタイル(志向や嗜好)はどのように変化し、又どこに向かおうとしているのかを探り、今後(21世紀)の食のライフスタイルの方向性を示唆する仮説を導いて行きたい。

上記の目的を達成する為に、3年の中長期的な視点にたった2年目として研究を継続。

- ・初年度(平成12年度):食のライフスタイル変化を探る為の仮説抽出作業
本年度は現状把握の1年として、食の送り手・作り手側に取材し、食のライフスタイルの変化の仮説・キーワードを探り、同時に、「ブランドを通して」これまでの食のライフスタイルの変化を整理し、研究の枠組みを構築。
- ・来年度(平成13年度)は2年目として:仮説検証の為の消費者研究
初年度に得られた仮説を検証する為、対消費者調査や市場観察を行い、生活者の食の意識や食に関するライフスタイルを探ります。
- ・3年度(平成14年度):研究成果のとりまとめ作業と補完研究

研究体制

企画推進:乳井瑞代(学習院大学大学院経営学研究科)

研究協力:青木幸弘(学習院大学経済学部教授)

(株)読売広告社ソリューション推進本部

(財)ハイライフ研究所 小坂井、高木

研究体制:ヒアリング取材を中心に研究会方式にて推進

[研究テーマ 2]

少子化時代における日本人の結婚観に関する研究

研究概要

—昨年おこなった「少子化に伴う家族のライフスタイル」の研究からの派生テーマとして、大きく変わりつつある日本人の結婚観を研究する。

少子化と結婚観は密接に係わっており、結婚のスタイル、適齢期も多様化している。次世代の男女がよりよい生活を実現するために、結婚をどのように考えているのか調査分析する。いくつかの事例調査と大学生に対する意識調査を実施する予定。

主な研究内容は、

- ・結婚観の変遷・・・文献調査により現状に至るまでの状況を把握
- ・次世代の結婚観・・・事例調査と大学生に対する意識調査により把握
- ・理想の結婚とは・・・次世代が考える理想の結婚とは
- ・諸外国の状況・・・文献調査による先進国の状況把握
- ・結婚観から見た新たなライフスタイルの展望
- ・少子化時代のネオ結婚観に伴う新たなサービス生活産業の顕在化

研究体制

企画推進:長谷川文雄(東北芸術工科大学副学長)

研究協力:大江守之(慶応大学総合政策学部教授)

荒井良雄(東京大学教養学部教授)

丹田佳子(武庫川女子大学生生活情報学科助教授)

松村 茂(東北芸術工科大学情報デザイン学科助教授)

(財)ハイライフ研究所研究員 ほか

研究方法

研究会を中心に分担調査・執筆

有識者、メンバーによるグループインタビュー

文献調査、ヒアリング調査ほか

②ハイライフモデル調査の展開

[研究テーマ 1]

「団塊の世代のライフスタイル」の一考察(継続調査)

研究概要

昨年度の「ネオ50'S」世代の研究、今年度の「団塊世代女性の“私”の履歴書」に引続き、団塊世代研究を継続する。団塊世代の全員が50代に突入し、ステージの変わり目の中、“R”的状況下にあるといわれる彼らの消費志向や今後のライフスタイルの方向性を探って行きたい。

研究体制

企画推進:小坂井達也(ハイライフ研究所事務局長・主任研究員)
研究協力:コミュニケーションデザインインスティテュート(CDI)
(株)読売広告社第1営業本部都市生活研究ディビジョン
(財)ハイライフ研究所事務局

研究体制:研究会を中心に予備調査の分析、取りまとめを行う。

[研究テーマ 2]

「大都市のシーンについて」の調査・研究

研究概要

東京都心の活性化に向けて、各地区の様々なシーンと訪問客のライフスタイルとの関連を検討し、都心を構成する公共・民間のサービスのあり方を提起する。この調査研究は①文化政策的観点(多様な文化施設を現代市民のニーズに応じてどう活用し、文化行政サービスはどう変化すべきか)②社会経済的観点(消費不況下、都心を構成するサービス業はどうすればよいのか、又誘客の手段及び通販や郊外大型店と競争するためにどう復権できるのか、更にシーンを構成するサービス産業が地区の特性を生かし、どのようなシーン作りに参加すべきなのか)③社会政策的観点(国際化の観点からの都心政策、高齢化・少子化の観点から魅力ある都心としてどのようなモデルが想起できるか)から考察する。研究対象が広範に渡るため2年度に分けて考察する。初年度は、事前調査を行い、全体フレームの設定を行い、2年度に具体的な経験調査研究を実施する。

研究内容

- ・利用者、訪問者のフェーズ

日本人のライフスタイルの変遷及び都心のある場面に登場するグループはどのようなライフスタイルを持っているのか

- ・民間供給サービスのフェーズ

訪問客にどのような変化があり、それに対応してどのような供給を行い、変化に対応しているのか。今後、どのような軌跡が予想されるのか

- ・公共供給サービスのフェーズ

- ・空間構成

街の構成、人の流れはどうなっているのか。街の雰囲気、アメニティー、魅力はどうか、今後の改善策はあるのか

- ・シーンの考察

都市の代表的な繁華街としてのシーンはどのように変化してきたか、また新たなシーンの発生はあるのか、そのシーンは如何に演出したらよいのか。現在の都心のシーンは興隆にむかっているのか衰退するのか、シーン供給者の戦略は今後どのようにすればよいのか。

- * 地区の設定

老舗地区(銀座など) ヤング地区(渋谷・原宿など) 庶民地区(上野・浅草など) るつぽ地区(新宿など)

- * シーンの設定

飲食シーン ファッション店舗シーン(ブランド店、ヤング店、デパート)
文化シーン(美術館、画廊、劇場その他) 街路行動シーン

研究体制

企画推進: 中田裕久(株式会社オオバ 環境開発研究所主任研究員)

研究協力: (株)読売広告社第1営業本部都市生活研究ディビジョン

(株)創造開発研究所

(財)ハイライフ研究所内に研究プロジェクトチーム事務局を設置し
識者、専門家など随時研究専門員として参加をお願いする。

③ハイライフ研究に関する普及活動

ホームページの充実

広報活動及び研究発表の場として、1昨年に立ち上げましたホームページは2年間で9500強のアクセスがあり、研究報告書への問合せも増加中。今後も、研究報告書の全文掲載、シンポジウム・講演会等の内容の掲載等のほか、ハイライフ研究所発の情報発信の場として更に充実を図っていく。

広報誌「はいらいふ研究」の発刊

研究所の広報及びPR強化の一環として、(財)ハイライフ研究所の活動報告や研究成果を研究所所属員の編集にて年1回発行。

④ハイライフ研究に関する催しの開催

昨年10月にオープンした銀座コムホールを使用した、ハイライフセミナー、講演会、シンポジウム等を企画し、銀座発のハイライフ研究に関する情報発信を充実させて行く。

ハイライフセミナーの開催

1)今年度の研究成果の発表

2)講演会

* 銀座コムホールハイライフ講演会 年2～3回実施予定

3)シンポジウムほか

* 文化パステル共同企画イベント

2. 受託研究の概要

①生活文化に関する受託研究(読売広告社より受託)

研究テーマ 生活文化に関する研究と出版

研究概要

過去3年間のコンセプトシリーズに引き続き、社会のトレンドや個人の価値意識の変革を分析し、生活文化に関する研究として取り纏め、出版する。

今年度は、日科技連出版社より新DINKSにスポットを当てた～新DINKSが新市場を創る～(タイトル未定)を6月に出版予定。

研究体制

企画推進：高田文夫((株)読売広告社ソリューション推進本部)

研究協力：高橋 誠 (創造開発研究所 代表)

(財)ハイライフ研究所ほか生活文化産業研究会スタッフ

②省エネルギーセンターよりの受託事業

研究概要

昨年度下期より実施している、省エネセンターへの研究員の派遣を引き続き行う。尚、来期のテーマは、小・中学校における省エネルギー教育の実践及び交通・運輸部門における省エネルギーの実施。

研究体制：市川昭彦(ハイライフ主任研究員)